

## 議決権行使レポート

証券コード 7701

会社名 島津製作所株式会社

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の処分の件	○		
第2号議案 取締役8名選任の件			
上田 輝久 氏	○		
山本 靖則 氏	○		
渡邊 明 氏	○		
丸山 秀三 氏	○		
和田 浩子 氏	○		
花井 陳雄 氏	○		
中西 義之 氏	○		
濱田 奈巳 氏	○		
第3号議案 監査役2名選任の件			
小谷崎 眞 氏	○		
林 由佳 氏	○		

本論における同社とは、島津製作所株式会社のことを指す。

### 上記の推奨をした理由

#### ・第1号議案 剰余金の処分の件について

配当性向がここ10年近く上昇傾向にあり、さらにISS基準の15-100%を満たしていること、また当期純利益や営業利益すなわち業績の大きな伸び、十分な自己資本比率を有していること、以上の点からGLASS LEWISの重視する観点で見ても妥当性が高いと考えられるため、本議案に賛成の意を示す。

#### ・第2号議案 取締役8人選任の件について

過去5期のROEの平均はISSの基準を超えており、また、1/2が社外取締役であること、女性が2人立候補していること、新任の丸山氏を除き全員、前会計年度における取締役会への出席率が100%であることから、ISSの選任基準でいうと、全体としては賛成するに申し分ないといえる。次に、各個人について述べていく。

2020-2022年度に行われた中期経営計画にて、売上高・営業利益・営業利益率について

の目標が建てられ、2022年度にはその当初の目標たちを大きく上回る結果を残した他、2022年度5月に上方修正された目標ですらも、営業利益率以外の2つは達成することに成功した。これは、経営陣が、先行きを見た見事な経営手腕を持っていたと言わざるを得ない。また、同計画では社会問題の解決への取り組みも図られ、ESGへの配慮も十分である。以上の2点から、計画実施初期(2020年度初頭)より取締役であった上田氏、山本氏、和田氏、花井氏の4人には、今後もその手腕を発揮して同社を支えることを期待し、賛成の意を示す。

渡邊氏は、1985年に同社に入社してから執行役員や事業部長、昨年からはCFOと、会社の運営において様々な重要な役割を担ってきている。そのため、同社がここまで成長してきたのは、取締役だけではなく渡邊氏の活躍も大きいのだと判断できる。このような実績と経験は、渡邊氏が取締役としても能力を発揮し、企業価値の向上に貢献していくことを証明している。

丸山氏は、中国・アメリカという世界の2大市場にかつて在籍しており、それらの市場について豊富な知識を有している。このことは、同社の企業規模の拡大、およびそれに伴う利益の向上に寄与すると考えられる。

中西氏は、世界的な化学企業にて取締役に就任していた経験を持つ。このことは、化学製品や医療機器等の化学物質を用いて製造する精密機器を製品に持つ同社の大きな手助けになり、安定的な発展を見込めるだろうと考える。

濱田氏は、外資系証券会社やコンサル会社での豊富な経験を持ち、そのために多大な財務・経理に関する知識を有する。そのため、上場企業であり企業規模の大きい同社の経営に関する監督者を担う者としていかに力発揮するだろうと考える。

以上の点から、渡邊氏、丸山氏、中西氏、濱田氏について、同社のさらなる成長に寄与することを期待し、賛成の意を示す。

#### ・第3号議案 監査役2名選任の件について

小谷崎氏は、2019年に監査役に就任して以来監査体制の強化に取り組んでいることから、再任後も同様の役割を果たすだろうと考える。また、他社で代表取締役を務めていることから、経営に関する知識も有しているため、多角的な視点から監査業務に取り掛かることができるだろう。以上の点から、小谷崎氏は同社に不可欠な存在と考え、賛成の意を示す。

林氏は、大手監査法人で勤務したのち、自身の会計事務所を立ちあげていることから、会計に関する非常に豊富な知識を有していると考えられる。また、独立性について、同社の株式を有しておらず、同社が大株主である株式会社への勤務経験がないことから、十分に社外監査役としての独立性を保持している。以上の点から、公正で適切な監査としての役割を果たすだろうと期待し、賛成の意を示す。